

## 日本の古代・中世の地震史料の校訂とデータベース化

### Emending and databasing historical earthquake documents in the Japanese Ancient and Medieval ages

# 石橋 克彦[1]; 古代・中世地震史料データベース化研究グループ 石橋 克彦[2]

# Katsuhiko Ishibashi[1]; Ishibashi Katsuhiko Research Group on Databasing Japanese Ancient and Medieval Historical Earthquake Documents[2]

[1] 神戸大・都市安全研究セ; [2] -

[1] RCUSS, Kobe Univ.; [2] -

<http://historical.seismology.jp/erice/>

我々は、2003～2006年度の科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))によって、「古代・中世の全地震史料の校訂・電子化と国際標準震度データベース構築に関する研究」(課題番号15201040)を実施している。本発表は、石橋・他(日本地震学会2003年度秋季大会講演予稿集, C023)の続報にあたり、この研究プロジェクトの中間報告をおこなうものである。

このプロジェクトは、地震・火山・津波、古代・中世史、情報学の専門家が学際共同研究をおこない、最終的に、(1)古代・中世の既刊全地震史料を吟味・選別・校訂・再編集した信頼性の高い地震史料集、(2)それを電子化して高度の検索機能を付した地震史料フルテキストデータベース、(3)地震・地震災害研究の多様な目的に活用できて世界にも通用する国際標準仕様震度データベース(ヨーロッパを中心に世界的に整備されつつあるIntensity Data Point (IDP)の構造を含むもの)、の作製を目指している。また基本的に、歴史地震研究が本来、歴史科学と地震科学の学際領域であり、文献史学的方法と地震学的方法の融合が必須であることと、日本列島の歴史地震研究もグローバルな地震研究の一環であることを強く意識している。

現在は、まず『増訂大日本地震史料・第一巻』(武者, 1941)をインデックスとして、その内容の電子化と、校訂・再構成の作業を進めるとともに、地震史料データベースの試作をおこなっている。電子化データはXMLによるマークアップを採用した。DTDの定義に際しては、データベース化と入手困難な史料の電子的再構成を目指して、以下の枠組みを設定した:(1)ルビ、割り注、返り点、外字などの記述については可能な限り保存する、(2)注釈等を保存し、また校訂作業における注釈等の追加も可能とする。地震史料データベースの試作版は、データベース部にはPostgreSQL、ユーザーインターフェイス部にはPHP言語を用いて開発した。開発に当たっては、インターネットを介してブラウザで操作が行えること、閲覧者の環境に依存せず汎用的なブラウザで閲覧可能なことを目標とした。各項目によるソート表示、検索表示などの一般的なデータベースの機能を実装済みである。また、元史料のイメージにより近づいた縦書き表示も実現している。

試作版データベースはまだ内部資料であるが、それが出来たおかげで、従来断片的に気付かれながら全容が明らかでなかった地震史料集の問題点はかなり明らかになってきた。異名同書や、虚構地震(fake earthquake)、虚構史料などに関してである。また、歴史研究者が重視する史料と地震研究者が重視する史料との違いがあらためて浮き彫りになり、従来歴史学では評価が低かった年代記などの史料学的検討が開始されたのは大きな成果の一つである。引き続き、『新収日本地震史料』(東京大学地震研究所, 1980-1994)をインデックスとした史料の電子化を進めているが、本研究プロジェクトの最終的なアウトプットは、基本的には歴史学によって史料と認められるレベルの文献に精選されると思われる。

本研究グループのメンバーは以下の14名である: 石橋克彦(神戸大学都市安全研究センター/地震学・史料地震学; 研究代表者)、小山真人(静岡大学教育学部/火山学・史料地震火山学)、佐竹健治(産業技術総合研究所活断層研究センター/地震学・古地震学)、都司嘉宣(東京大学地震研究所/海洋物理学・史料地震学)、早川由紀夫(群馬大学教育学部/火山学・史料火山学)、榎原雅治(東京大学史料編纂所/日本中世史)、笹本正治(信州大学人文学部/日本中・近世史)、高橋昌明(神戸大学文学部/日本古代・中世史)、田良島哲(東京国立博物館事業部情報課/日本中世史・史料学)、藤田明良(天理大学国際文化学部/日本中世史・東アジア交流史)、矢田俊文(新潟大学人文学部/日本中世史)、安永尚志(国文学研究資料館複合領域研究系/情報工学・情報文学)原正一郎(国文学研究資料館複合領域研究系/情報学・国文学情報処理)、前嶋美紀(まえちゃんねっと/システムエンジニア; 研究協力者)